

ファイアースピリット

VOLUNTEER



延焼する山林 10月15日 17:09分

消防団員全員召集 懸命の消火活動

10月15日午前10時35分ごろ、三原市深町で大規模な山火事が発生しました。三原市消防本部とともに三原方面隊が消火にあたりましたが、火勢は増し延焼。13時28分火勢延焼阻止のため三原市消防団員の全員召集が発表されました。消防隊員、消防団員、近隣各県からの消防防災ヘリコプターが出動し消火活動にあたったものの、日没のため山中での消火活動を中断せざるを得なくなりました。

夜の空を真っ赤にそめる火に、不安で眠れぬ住民の姿が度々見受けられ、そのそばでは家屋に迫り来る火を防ぐため、不眠不休で消火活動にあたる消防団員の姿がありました。

夜空が白みかけた午前6時から、自衛隊のヘリコプターも加わった消火活動が再開されました。

消火に当たる団員の顔も疲労困憊を呈し、消防団員の志に支えられての消火活動。

この度の火災は、火災発生から2日後の10月17日午後1時、43・75ヘクタールを焼失して鎮火しました。この度の大規模火災に動員した消防団員は669人。三原市消防団の保道勝団長は「民家等への延焼を許さず被害を最小限に留めることができ、ほっとしています。火の取扱については十分に注意していただきたい」とコメントを残しました。みなさん、火の取扱は十分に注意してください。

目次

消防団員全員召集懸命の消火活動	P 1
消防団上半期活動状況	P 2
三原市消防団入団にあたって	P 4
深町林野火災消火活動状況	P 4

平成24年度 三原市消防団入団式及び研修会

と き 平成24年4月22日(日) 9時～12時
場 所 三原市消防本部
参加人員 32名 対象者 44名

4月22日(日)三原市消防本部で、新しく消防団に入団した団員を対象とした三原市消防団入団式と研修会が行われ、32名の新入団員が参加しました。

真新しい活動服に身を包み、やや緊張した面持ちで参加した団員は、三原市消防団団長(保道 勝)からの訓示、三原市消防本部分防長(中本 一郎)からの祝辞を受けた後、新入団員を代表して東部分団の大坪俊彦団員が「安全で安心なま



ちづくり」に努めます」と決意表明をしました。

式典後は場所を、消防本部署庭に移し、敬礼の動作や基本姿勢の礼式訓練を、先輩団員の指導を受け実施しました。

三原市消防団総勢1344人の一員として、安全で安心

平成24年度

三原市消防団第1回分団長会議

と き 平成24年6月1日(金) 15時～17時
場 所 三原市消防本部
参加者 54名

6月1日三原市消防本部分で、三原市消防団第1回分団長会議が行われ、副市長をはじめ市内の全消防団分団長30名と消防関係者が集まりました。会議の冒頭副市長から、消防庁長官表彰の伝達が行われ、5人の受章者に賞状と記念品が授与されました。副市長は挨拶

なまちづくりのため活躍が期待されます。



の中で「大規模災害はいつどこで起こるかわかりません。日頃の訓練の精進と災害発生時の迅速な対応をお願いします」と述べられ、参加者は心に強く刻んでいました。

その後、年間事業計画について活発な討議がなされました。

平成24年度 水防訓練

と き 平成24年6月17日(日) 9時～12時
場 所 沼田川河川防災ステーション
参加者 149名

梅雨を前にした6月17日(日)、沼田川河川防災ステーションにおいて水防訓練が行われ、消防団員や消防関係者約150人余りが参加しました。

水防活動に必要な知識と作業、資機材管理の徹底を目的としたこの度の訓練では、最初に土のうの作り方について学んだ後、あふれ出る水を堰ぎ止める「改良積み土のう工法」や、土砂崩れ現場での「シート張り工法」、河川堤防決壊での「木流し工法」について、消防職員の指導を受けながら学びました。



今後の水防活動での迅速適切な対応が期待されます。



機械器具特別点検

とき 平成24年7月1日(日) 9時～14時30分
場所 沼田川河川防災ステーション他
参加者 各分団団員



消防活動の基本は、良く整備された機械器具と良く訓練された団員であることです。7月1日(日)分団全ての車両と小型動力ポンプの特別点検が実施されました。方面隊長の指揮のもと全車両一斉に点検が開始され、赤色灯をはじめマイクが正常に作動するかなどの点検が行われました。その後、小型動力ポンプについて1台ごとに始動状況、整備状況について点検が行わ

れました。
大きなトラブルは無く、普段の整備の正確さが再認識されました。

三原市消防団ソフトボール大会

とき 平成24年8月5日(日) 8時～14時30分
場所 三菱和田沖グラウンド
参加者 470名

団員の親睦とより一層のチームワークの構築を目的とした三原市消防団ソフトボール大会が行われました。各分団から選りすぐりの選手15名が参加し熱戦を繰り広げました。

結果はつぎのとおりです。

Aグループ

優勝 小泉分団

準優勝 須波分団

3位 沼田西分団・系崎分団

Bグループ

優勝 本郷分団

準優勝 長谷分団

3位 羽和泉分団・田野浦分団

野浦分団



平成24年度 広島県消防防災競技大会

とき 平成24年9月29日(土) 9時30分～15時
場所 安芸太田町 深入山グリーンシヤワー
参加者 80名(三原市消防団からは16名)

各種災害を想定した競技を行い、防火防災意識の啓発と各消防団の連携強化を図ることを目的とした「平成24年度広島県消防防災競技大会」が安芸太田町において行われ、県内全消防団から80名が参加し、6ブロック対抗で争われました。

競技は担架搬送リレーや水バケツリレー、ロープ結索、応急手当などの消防活動に関係した競技で争われ、白熱した熱戦が繰り広げられました。

この様な大会は、全国でも珍しく今後も継続して行われる予定です。



三原市消防団入団にあたって



東部分団 大坪 俊彦

この度三原市消防団に入団させていただきました。また決意表明を述べさせていただきます。たいへん光栄に感じております。

我々は特別職の地方公務員であるという自覚を持ち、かつ、三原市民の血税によって活動が賄われているという認識のもとに、行動しなければならぬと肝に銘じました。決意表明でも述べさせていただきましたように、相互敬愛し、安全で安心な街づくりの推進に努めていく所存です。

東日本大震災という未曾有の災害において、消防団の必要性が再認識されたように思います。三原市でも、災害が起きない保証はありません。常に災害は起こるものという認識のもと、警戒心の喚起に努めることも重要な責務だと感じています。

また、自然災害以外の身近に存在する危険に対処できるよつ、私の技能を生かし、救

急法の訴求にも努めていききたいと思っております。震災をさかいに、蘇生プログラムの開催実績は非常に高まっております。一般市民レベルのファーストエイドに対する知識・認識が高まれば、救命率や蘇生率が飛躍的に上がるだけでなく、事故防止の啓発につながります。是非各分団でも、救急法に関して再認識してみたいと考えています。

私事、震災直後から継続的にボランティア活動を行っておりますが、もし活動に対してご理解いただけるのであれば、団本部ならびに各分団からのご支援を賜れば望外の喜びでございます。

末尾になりましたが、東日本大震災により亡くなられた皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

深町林野火災消火活動状況



各分団中継しての放水



山中への消火活動



指揮のとれた放水ライン



山へ分け入っての消火活動



山林の中を延長したホースライン

三原市内の火災発生状況

1月~10月			
種別	24年	23年	増減
建物	22	11	+11
林野	5	10	-5
車両	10	7	+3
船舶	0	1	-1
その他	17	22	-5
合計	54	51	+3



就役式で整列した分団員



更新された積載車

小型動力ポンプ積載車を更新
消防団配備の小型動力ポンプ積載車3台を更新し、平成24年10月18日、三原市消防本部で就役式を行いました。